

令和6年度第4回半田市子ども・子育て会議議事録

開催日時	令和7年2月25日（火）	13時30分～15時30分
開催場所	半田市役所4階 庁議室	
会議次第	1. あいさつ 2. 議題 <協議事項> (1)パブリックコメント手続きの実施結果について (2)第3期半田市子ども・子育て支援事業計画の承認について (3)特定地域型保育事業の利用定員の設定について <報告事項> (4)半田市こども計画の策定について (5)令和6年度半田市こども未来ミーティングについて (6)その他	
出席委員	（会長）末盛 慶 （委員）林田 佑佳、原口 博子、澤田 恵子、福田 昌寛、北村 正信、 竹内 あつ子、正村 日登美、天野 真弓、都築 佳子、 小島 典子、森田 知幸、間瀬 恒幸（敬称略）	
出席職員 （事務局）	学校教育課長 内藤 誠 幼児保育課長 前田 成久 子ども育成課長 三輪 象太郎 子ども育成課長 小林 徹 子ども育成課副主幹 森本 総一郎 学校教育課主査 羽根 広 子育て相談課主査 和田 恭子 幼児保育課 岩田 幸士 子ども育成課主査 山田 陽子 子ども育成課主査 大木 あゆみ 子ども育成課主事 服部 晃良	
傍聴者	4名	
次 第	議事概要	
	○会長あいさつ ○事務局から説明（子ども育成課長） ・議事録について ・傍聴者について	
【 議 題 】 （1）パブリックコメント手続きの実施結果について	（事務局） <資料1により説明> （会長） 説明は終わりました。ここまでのところで、委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。 （委員） 6通12件というのは、件数として多いのか、少ないのか、どの程度のものでしょうか。 （事務局） 同時期に8つの計画についてパブリックコメント手続きを実施していますが、本計画に対する意見提出が最も多いと聞いています。なお、第2	

	期計画については、9通14件でした（第3期について、意見として扱わないものを含むと8通15件）。 （他に）ありませんか。 ないようですので、パブリックコメント手続きの結果について委員の皆様へ承認いただけるか伺いたと思います。承認をいただける方は挙手をお願いします。 <多数の挙手をもって承認> ありがとうございました。 次に移ります。
【議題】（2） 第3期半田市子ども・子育て支援事業計画の承認について	（事務局） <資料2、3により説明> （会長） 説明は終わりました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。 （委員） 知り合いの方から、出産にはとてもお金がかかり、1人目を産むことのハードルが高いという話をうかがいました。半田市では出産に対する補助はありますか。 （子育て相談課長） 半田市からではありませんが、健康保険等の被保険者当が出産したときは、50万円の出産育児一時金が支給されます。 （子育て相談課主査） 出産・子育て応援ギフトという制度があり、妊娠届を提出時に「出産ギフト」、出生届を提出後に「子育て応援ギフト」として、それぞれ5万円、計10万円の給付が受けられます。来年度、多少の制度変更は予定されていますが、出産時の経済的支援については以前に比べて手厚くなってきていると考えています。また、出生後のワクチン接種についてもおおむね公費で接種できます。 （委員） 出産・子育て応援ギフトは、誰でも受けられますか。

(子育て相談課主査)

はい。

(子育て相談課長)

個別の支援という点では、妊娠届出時の妊婦の方と保健師が面談をし、それ以降は状況にあわせた個別支援をしています。また、妊娠8か月頃にアンケートを実施し、回答結果をもとに、保健師が面談等を実施します。産後は、産後2週間から1か月頃の産婦を対象に、「すこやかベビー応援コール」と言いますが、助産師や保健師が電話で母子の体調確認、育児に関する相談等を行い、必要な支援に繋いでいます。

(委員)

市長のあいさつ文に「働く親を応援するまち」とありますが、この「働く」とはどういう意味ですか。

パブリックコメントの意見のなかに、育休になると退園することになるということがありました。これは、働いていないからサービスが受けられないというところで、「働く」というところに違和感を感じます。第一子の無償化についても意見がありましたが、一番お金がかかる時期に支援があるといいなと思います。

(子ども未来部長)

子育てにかかる費用を全て無償にできれば経済的な負担に不安を感じずに子育てができますが、市の予算も限られていますので、どのように使っていくか、どこに力を入れるのか考えていく必要があります。そうしたなかで現在、市が掲げているのが「働いている親を応援するまち」ということですが、これは、働いていない親を応援しないという意味ではありません。

(事務局)

第一子が無償化するかどうか、といった点について、無償化することで待機児童が増えたという自治体があるということを聞いています。これに関わらず、どのように施策を展開していくか、様々な視点で考える必要があります。

なお、誤解のないよう申し添えますが、この子ども・子育て支援事業計画は、全ての子ども、子育て家庭を支援する主旨の計画です。

(幼児保育課長)

育休退園については、幼児については、育休退園をしなくてもよい制度としていますが、低年齢児については、待機児童が生じているなか、限られた施設のなかで保育園に預ける必要性がより高い方に入っていただくような運営をしていますので、ご理解ください。

また、保育料の無償化についても、限られた予算のなかで、多子世帯の

方を支援するという考え方で実施しています。

(子ども未来部長)

待機児童対策という点で、低年齢児の受入を増やすために、来年度から小規模保育園を新たに開設します。今後も待機児童対策を検討していきます。

(委員)

市民病院が新設されますが、産婦人科が出産のためにとてもいい仕組みになっていて、安心して出産できると聞きました。市民病院には、相談事業はありますか。

(子育て相談課長)

病院内にはありませんが、退院してから包括的な相談支援を行います。引き続き病院等との連携にて対応できればと思います。

(委員)

出産した病院等の助産師さんや、看護師さんに相談できるととても心強いと思いますので、退院して1か月から2か月ぐらいはそのような相談できる体制があるとよいと感じました。

(子育て相談課主査)

現在も、産後不安が強い方等には、同意を得た上で、病院の医師、助産師、保健師と一緒に面談をしています。病院の相談機能と退院後の地域での相談機能というところで連携をしながら、安心して出産、子育てがしていただけるよう今後も引き続き対応していきます。

(子育て相談課長)

病院等との連携については、本人の同意を得てから、個人情報について配慮しながら支援をしています。

(委員)

幼稚園児をもつ母親の立場として、「働く家庭を応援する」ということにですが、夫婦ともにフルタイムで働いている家庭を対象にした支援が多いと思います。そうしたなかで、パートタイムレベルで働きたい、子どもの時間に合わせて働いていきたい家庭も多いと思います。そういう家庭の支援を充実させていただきたいです。そうすることで、子どもたちが帰ってくる時間にお帰りと言える、育児ができます。

また、夫婦ともにフルタイムで働いている家庭が育児で休んでいるときに補助があるといいと思います。

全て働く親に合わせることによって、そのしわ寄せが子どもにいつてしまっているように感じます。

(委員)

私はフルタイムで働いますが、それによって子どもにしわ寄せがいくと

感じていますので、子どものメンタル面を大事にしてあげたいです。子どもの居場所が必要だと思いますが、今は少ないと感じます。

児童センターについて、小学生は自分で行けますが、未就学の子どもは、親と一緒にいて行く必要があります。兄弟について行きたい、ということもありますが、例えば夕方時間帯は自分も忙しいので一緒に行けないので利用ができません。その点についてについては疑問に感じます。

(子ども育成課長)

ご指摘のようになことについては、我々のところにもそのような声が聞こえてきます。一方で、未就学のお子さんが保護者なしで来ることにに関して安全面で問題になります。保護者の方に見守ってもらうなかで安心して遊ぶことができるということもありますので、利用しやすい環境を整えるということは大事なことで認識していますが、安全、安心ということも考えていく必要があると考えておりますので、ご理解ください。

(委員)

例えば児童センターや放課後児童クラブが小学校に入るなかで、未就学の子どもたちも遊べる場所に、働いてないお母さんがボランティア等に入るようなことであったり、その他の場所でもそうしたことがあれば子どもが伸び伸び遊べる環境ができると思います。働いてるお母さんをサポートする人、サポートする側にもメリットがあって、そうしたことが活性化していけば、幸せな地域になるんじゃないかと思います。

(子ども育成課長)

これから新しい子どもの居場所を整備していくなかで、地域でお手伝いをしてくれる方、応援してくれる方がいれば、保護者の方が直接見ていなくても、お子さんたちを見守っていただけるような環境が作れるのではないかと考えております。地域の声を聞くなかで、できる形でみなさんが使いやすい環境を整えていきたいと考えております。

(他に) ありませんか。

ないようですので、この計画を皆様に承認いただけるか伺いたいと思います。承認をいただける方は挙手をお願いします。

<多数の挙手をもって承認>

ありがとうございました。それでは、承認とさせていただきます。来年度からはこの第3期計画に基づき、計画に記載の施策を推進していくこととします。

次に移ります。

【議題】(3) 特定地域型 保育事業の 利用定員の 設定について	(幼児保育課長) <資料4により説明> (会長) 説明は終わりました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。 (会長) 他の自治体では少子化もあり、待機児童が減っているということは聞きますが、半田市では増えている傾向にあるということでしょうか。 (幼児保育課長) 低年齢児はとくにこの1～2年ぐらいで、働きたいという保護者の方が増えてきているようで、待機児童が増えています。 待機児童については、今までは0歳のお子さんが、年度途中で入ることができないケースが多い状態でしたが、昨年度からは1歳のお子さんが入れないという状況が生じています。また、昨年0歳だったお子さんたちが今年1歳に上がったため1歳のお子さんで待機が非常に増えています。0歳は例年よりも少し多いレベルですが、例年同様年度途中から待機が生じてきたというような状態です。来年度に向けて、この1歳の待機が2歳に上がっていくため、2歳もあまり空きがない状況です。原因について、厳密な分析は難しいところですが、働きたい保護者の方が増えた要因の一つとしては、物価高騰などによる家計の支出の増加があるのではないかと考えております。 (委員) 親子サロンのボランティアをさせていただいていますが、そちらも参加されるお子さんは低年齢化しています。今まで幼稚園や保育園に行く前の歩ける子どもさんたちが参加していましたが、0～1歳のお子さんが参加するような状況になっています。そこに来られていたお母さんから、育休の制度は、会社に復帰する日を先に伝えるということを聞きました。子どもが生まれてから、もう少し育休を伸ばしたいと思うが、できないとおっしゃっていました。生まれる前に決めたことを生まれてから見直すことができるような制度になれば、例えば待機児童についても減少したり、いろんなことがもう少し自分らしくやれるようになるんじゃないかと思います。子どもの成長を見ながら、親も育っているというところで、何か見落とされてしまっていないかと感じました。 (会長) 待機児童数が69人というのは、半田市の人口規模から見ると多いなど
---	---

感じます。

（幼児保育課長）

令和5年度に27人、令和6年度は69人と増加傾向にあるなか、できるだけ待機児童を少なくできるよう、急遽、小規模保育事業所を応募し、令和7年5月に開設を予定することとなり、今回この定員設定の議題を挙げさせていただきました。

（委員）

10月の時点でどの年度も待機児童がいるにもかかわらず、4月になると0になるっていうのはなぜですか。

（幼児保育課長）

4月になると1学年繰り上がるため、上の学年になると受入枠が少し大きくなるためです。0歳で待機だった方は、1歳になると定員数が増えますので、待機が解消されます。ただし、0歳については、半田市では1年あたりの出生数が800人程度ですが、その人数が4月の時点で出生しているわけではなく、月日を追うごとに増えていきますので、どうしても0歳児については1歳と比べて若干定員が少なくなります。そうしたことから、年度途中で0歳のお子さんがたくさん増えてくると待機が生じてきます。それが1歳になり定員が増えるので受け入れられるという、そういう仕組みで待機が毎年解消されるというような形になっています。ただ、令和6年度の1歳児の待機については、前年度の0歳児の待機児童数が想定より多かったため、0歳だった方が1歳になったときに空きが少ない状態でスタートしたので、前年度途中で多くの方の待機が生じてしまっています。

（委員）

職場も復帰を待っていて、その方でないとできないポジションもあると思うので、いろんな面で難しいと感じました。

（委員）

私の事業所では昨年5人出産をしています。出産については嬉しいことですし、子育てのために休んでほしいと思いますが、事業所としては困ったなあと感じました。難しいことだと感じています。また、昔は、子どもに合わせて親が動いていましたが、時代が変わって子どもが親に合わせることになっている、そこで行政が応援に入っていくという時代の変化を改めて感じました。

	(他に) ありませんか。 ないようですので、本件について事務局からの提案を委員の皆様から承認いただけるか伺いたいと思います。承認をいただける方は挙手をお願いします。 <多数の挙手をもって承認> ありがとうございました。 それでは、次に移ります。
【議題】(4) 半田市こども計画の策定について	(事務局) <資料5により説明。> (会長) 説明は終わりました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。 (質問等なし) (会長) ないようですので、次に移ります。
【議題】(5) 令和6年度半田市こども未来ミーティングについて	(事務局) <資料6により説明。> (会長) 説明は終わりました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。 (質問等なし) (会長) 他にありませんか。ないようですので、次に移ります。
【議題】(6) その他	(会長) その他、について事務局から何かありますか。 (事務局) <資料7により、横川小学校の放課後ひろばについて説明。> (会長) 説明は終わりました。委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。

	んか。 (委員) 大人の見守り員は、どのような方ですか。 (子ども育成課副主幹) 横川小については、今年の4月から学童保育が入っていますので、そちらの事業所の方をお願いするようことを考えております。 (委員) こども計画を作るという説明がありましたが、子どもの目線から意見が反映されてほしいと考えており、例えば横川小学校の放課後ひろばの利用方法についても、ぜひ子どもの意見も取り入れて運営していただきたいと思います。 (委員) 様々な事業、制度があつたり計画があつたりするなかで、必要な対象者に情報が届いていないのではないかと感じることがあります。今の時代、SNSやいろんな手段があるなかで、積極的に情報を取りにいく方はそれでいいと思いますが、日々の忙しさのなかで、また、そうしたことが苦手な方は、制度を知らないまま利用せずに困っているという状況もあるのではないかと思います。このような計画や制度ができて、子育てがしやすくなっているはずですが、その点は残念に思います。情報発信や周知の方法については難しいことだと思いますが、ぜひ力を入れていただきたいです。情報が伝わったことにより制度を利用する方が増え、利用してよかったと思えば、その事業やサービスの拡大につながる可能性もありますし、逆に知る機会がないため、あまり利用されずに縮小してしまうことは、あってはならないと思いますので、情報発信に努めていただきたいです。 (会長) (他に) ありませんか。 ないようですので、本日、予定された議事はすべて終了しました。 皆様のご協力によりスムーズに議事進行できましたことをお礼申し上げます。 進行を事務局へお返しします。
閉会	(事務局) 末盛先生、ありがとうございました。 また、長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。 委員の皆様のご協力により昨年度から進めてまいりました第3期半田

	市子ども・子育て支援事業計画を策定することができました。来年度からは、この第3期計画を推進していくこととなりますが、委員の皆様には、引き続きそれぞれの立場からご協力をいただきたいと考えております。 また、先ほど説明させていただきましたが、来年度から「半田市こども計画」の策定を進めていきます。来年度は主に調査を実施します。調査方法等の詳細については、これから子ども育成課が中心となって、庁内の関係部署、委託業者と検討した後、この会議に諮ってご意見を伺いたいと考えております。 次回の会議は、令和7年度5月22日（木）午前10時から2時間程度、場所は、庁議室を予定しています。詳細については、後日ご案内させていただきますので、よろしくお願いします。 これを持ちまして、会議を閉会させていただきます。 本日はありがとうございました。
	（終了）